

【基本方針】暮らしを支える地域公共交通の実現をめざして ～市・交通事業者・地域が協働して「まもる・育てる・つくる」公共交通～

基本目標 1 : 地域の幹線交通としての路線バスを「まもる」

■ 施策 1 バス路線の維持と継続的な見直し

○ 赤字路線 (4 路線) に対する補助金の交付

地域乗合バス路線対策費補助金交付要綱に基づき、補助金を交付した。
補助金交付路線：国際興業バス 湯の沢線、名栗車庫線、中沢線、間野黒指線

○ 路線バスの乗込み調査の実施 (3/6)

補助金を交付しているバス路線の乗込み調査を実施した。
調査実施路線：国際興業バス 中沢線、間野黒指線

■ 施策 2 観光やイベント等による公共交通利用促進策の実施

○ わくわく名栗クラブによる利用促進事業の実施

名栗地区の活性化及び路線バスの利用促進事業を進めている地域団体
エコツアーの実施、「わくわく名栗通信」の発行・路線バス内での配布
川遊びイベント実施：7/1 実施、215 名参加 (豊島区、狭山市、入間市)

○ お散歩マーケットの開催 (2 回)

春：5/6 実施、1,190 名参加 秋：11/8 実施、886 名参加

○ 原市場地区公共交通を守る会による利用促進事業の実施

星を見るなら原市場 10/19 実施：16 名参加、3/9 実施：19 名参加

■ 施策 3 バス運行環境の整備

○ 飯能駅北口ロータリーの整備

H30.11 メツァビレッジ、H31.3 ムーミンバレーパークの開業に伴い、飯能駅北口
ロータリーをバス利用者の待合のため整備を実施した。



・待合動線の整備 ・新停留所の設置 ・3 社バス路線の案内板を設置

■ 施策 4 需要に対応したバス路線の見直し

○ 国際興業バス間野黒指線 (飯 11 系統) の工業団地に乗入れ 5/16～

飯能大河原工業団地内に国際興業バス間野黒指線の路線延長を開始し、
同工業団地の通勤者の利便性の向上につなげた。

○ メツァシャトルバスの運行開始 (3 社共同運行) 11/8～

宮沢湖畔に「メツァ」が開業したことに伴い、直通シャトルバスの運行を開始した。

○ 国際興業バス西武飯能日高線 (飯 07 系統) 等の路線変更 3/16～

市道飯能大河原線の開通に伴い、国際興業バス西武飯能日高線の路線変更を
実施した。また、併せて「飯能西中学校」、「飯能第一小学校」、「天覧山下」等のバ
ス停を新設し、周辺公共施設等のアクセスの利便性が向上した。

基本目標 2 : 路線バスを身近にして公共交通を「育てる」

■ 施策 1 バス路線をわかりやすく見せるための取組の推進

○ バスルートマップの内容の更新、増刷

メツァシャトルバス、バスの経路変更等を反映した内容に修正し、
20,000 部増刷した。市内の公共施設等において配布した。



■ 施策 2 市民・地元企業を巻き込んだモビリティマネジメントの実施

○ 公共交通ニュースの発行 (2 回)

市内のバスの現状、公共交通に関するニュース、お得なサービス等に関する情報を
「公共交通ニュース」としてまとめ、市民に対して発信を行なった。(8 月、3 月)

○ 市内「ノーマイカーデー」の実施

市内に在勤・在住者に対して、通勤時等のマイカー利用を見直してもらうため、
「2018 はんのう市ノーマイカーデー」を実施した。市内の事業所のほか、飲食店舗
等に協賛店として協力してもらい、参加者に対する特典を提供してもらった。

期 間：12 月 10 日 (月) ～28 日 (金) 3 週間

事業所：13 事業所 協賛店：18 店舗 参加者：579 人



■ 施策 3 マイバス意識の醸成

○ 「路線バスで行く！飯能スゴイところスタンプラリー」(国際興業協力)

11/11 実施。シート 200 枚配布、105 組景品受領。

○ 「ラッピングバスで乗り方教室・運転手体験」(国際興業協力)

11/11 実施。乗り方教室：15 名参加、運転手体験：80 組参加。

○ 「外国人住民のための乗り方教室」(国際交流協会共催、国際興業協力)

11/11 実施。名栗・紅葉まつり会場に移動。19 名参加 (ペルー、中国ほか)



○ 出前講座「どうする？どうなる？免許返納」

7/17 実施。市民団体「持ち寄りサロン」から要請。参加者：25 名

○ 「ノリノリ！のりものフェスティバル」(ダイヤプラン 5 市共催)

11/17 実施。所沢市航空記念公園で開催。車両展示、各種イベント実施。
来場者：約 10,000 人

○ 講演会「みんなで考えよう おでかけの足」(講師：吉田樹氏)

6/6 開催。市の公共交通の現状、事例等の紹介。参加者：54 名

○ 赤字路線沿線住民に対する利用促進ポスティングの実施

第二区、原市場、名栗地区在住者約 4,000 世帯に対して実施。

■ 施策 4 公共交通利用のための利便性の向上

○ JR 東飯能駅ホームに内方線付き点状ブロックを整備。(JR 東日本)

基本目標 3 : 生活を支える公共交通手段を「つくる」

■ 施策 1 「おでかけ」を守るための検討

○ 飯能市地域公共交通対策協議会(分科会)の開催 (法定協議会)

第 6 回～第 8 回協議会の開催、第 5 回～第 6 回分科会の開催

○ 「地域主体による交通手段の導入・確保の手引き」の作成

市内各地区に移動手段を導入する際に参考となるマニュアルを作成した。

○ 各地区による主体的な運営組織づくり

各地区の福祉推進組織等で移動手段導入の検討を進めた。

・吾野地区たすけあいあがの「らくだ号」(無償)の運行支援

・介護第 1 層協議体での市内の移動交通に関する意見交換

○ 公共交通空白地有償運送「奥武蔵らくらく交通」の登録、サービス開始

NPO 法人奥武蔵グリーンリゾートによる「奥武蔵らくらく交通」のサービス開始 (公共
交通空白地有償運送、県内 2 例目)。11/27 県に登録、12/6 サービス開始。

「奥武蔵らくらく交通」概要

利用できる人：原則、吾野地区、東吾野地区に在住、在勤者 (要利用登録)

利用できる日：毎週火、木、金曜日 (その他曜日は要相談)

利用範囲：吾野地区、東吾野地区内、飯能市内

利用料金：3 km 未満 500 円 以降 1 km ごとに 100 円加算

利用時間：午前 8 時～午後 6 時



○ 公共交通空白地有償運送支援補助金の創設 (H31.4 より施行)

既に事業を実施している又は実施しようとしている団体に対する支援制度。

初年度事業、設備整備事業、運行事業に対してそれぞれ上限 50 万円補助。

■ 施策 2 社会資源の活用の検討

○ 吾野小学校スクールバスの混乗制度実証実験

吾野小の児童が利用するスクールバスに、一般住民が相乗り (混乗) する制度。

吾野小、国際興業 (運行事業者)、PTA、地域住民の協力により実施。

実証実験結果

期 間：5 月 16 日～3 月 26 日

運行日数：登校 179 日、下校 149 日

登録者数：108 人

利用者数：延べ 94 人 (週 2.35 人)



○ 社会資源の活用の検討

総合福祉センターの送迎バスについて実態調査を行い、市民の移動手段に活用で
きないか検討を行なった。

